

さくら苑リハビリセンター 2018年度 総括

はじめに

ご利用者・ご家族・地域の皆様が安心してさくら苑を利用していただくことを念頭に置き、昨年度に発生したデイケアでの送迎中の死亡事故の事実を忘れることなくリスクマネジメントに取り組んできました。しかしながら、11月12日に生活支援部で発生したおやつ介助中の窒息事故により、一つの尊い命を失ってしまう結果となりました。リスクマネジメントへの取り組みの不十分さであり、改めて命の大切さを学び・考え、一層の対策強化を課題として今後も取り組んでいきます。

ここに、リスクマネジメントの課題のみならず2018年度に方針化した5つの使命と20の目標に沿って特徴的な実践について下記の通り総括します。

I 法人一の接遇を目指します

1、だれからみても気持ちのよい対応・接遇を目指し取り組みを強化します

「接遇はコミュニケーションの一部」との考えにもとづき、各部署で接遇目標を掲げ日常的に取り組まれました。とりわけ、接遇向上委員会で朝のあいさつ運動を計6回行い、接遇Tシャツとリストバンドの活用を行い、お互いの存在を確認しあう「あいさつ」の推進を図りました。生活支援部では、就業前のご利用者への挨拶運動を日々継続して取り組むことで、就業時の意識改革を継続してきました。

II 利用者・家族に圧倒的に選ばれる施設を目指します

1、地域から圧倒的に選ばれる事業所を目指し、部署ごとに新しい実践づくりを行います

介護報酬の改定に伴い、とりわけ「リハビリ部」を主軸としたリハビリ提供の強化を全体的に実践しました。大集団・小集団リハビリと個別リハビリの中身を具体化していき、デイケアでは介護職・看護職による個別リハビリ（1日3～6名）の実践に至るまで成果をあげています。しかしながら、医師関与業務の増加必須の改定がある中で、医師体制の不安定さが取り組みへの足かせとなってしまう実態となり、大きな課題となっています。

2、さくら苑を取り巻く情勢や地域の変化介護事業所の動向について情報収集を行いません

東区に新規老人保健施設が開設し競合の1年が経過するとともに他の通所リハビリ（牛窓：通所リハビリテーションみなと）が3月末で休止を迎えられるなど近隣情勢が変化する年度となりました。その中で他老健との実践交流を図るため、意見交換会を2回、老健協主催の研修会にも15回、述べ17名が参加しました。また、老健協主催のアシスタント育成事業へ始めて取り組みを行い、5名のアシスタントにて事業を開始することができました。

3、さくら苑の機能を活用し、老健施設に求められる地域復帰への取り組みを強化します

課題はまだ多くありますが、年間を通じ在宅及び地域復帰された方が延べ61名おられました。在宅復帰率は57.44%です。

4、人権を守り利用者本位の個別支援を推進します

「在宅復帰強化型老健」として取り組む中で、在宅復帰・地域復帰とは何かを考え、特に相談部、生活支援部、リハビリ部としての連携を図るうえで検討会議にて協議を重ねました。その中

で、長期入所が見込まれるご利用者1名を定期的な在宅生活に送り出す実践が行えました。

5、「その人らしさ」を発揮してもらえるよう自己選択、自己決定を尊重したケアに取り組みます

生活支援部では、「ご本人が望まれることを叶える」をモットーに誕生日外出に年間20回取り組みました。ご本人、ご家族への聞き取りや予定の調整を綿密に行い、年間を通じて実践が行えました。今後ご本人の意思を尊重した外出計画が行えるよう取り組んでいきます。

6、「安心・安全」を支えるリスクマネジメントに取り組みます

毎月1日を「交通安全の日」として、送迎出発時の安全運転への意識を高める声の掛け合い運動、送迎時の運転チェック項目及び基準の更新と活用、日々の体調チェック、交通事故リスクの軽減に努めています。また、窒息事故の原因となったゼリーについての協議を深め、委託業者と事業所とでシュミレーションを繰り返し、提供種別ごとに水分濃度を定めていきました。

7、リニューアルについての検討を継続的にこなっていきます

20周年を迎えるにあたり外壁塗り替え実施から計画的な修繕に取り組んできました。今年度は壁紙の更新を約半分行い、来年度はベッドの入れ替えなど計画的なリニューアルに向けた取り組みを実施していきます。

III 地域・施設を支える職員づくりを進めます

1、「学び・考え・実践する」職員を育成し、働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」を進めます

通所リハビリ部では、毎月の職場会議にてチームビルディングを踏まえた学習会を開催しています。対人やグループ別など計画的に実践を行い、部署を超えた育成の関係づくりを行うため、リハビリ部職員も毎月参加を行い職場づくりに取り組んでいます。

2、MBOにもとづく評価とフィードバックを3ヶ月毎以上の頻度で行ないます

全体を通してフィードバックが3か月毎以上の頻度で実施が行えませんでした。ユニットごとでの振り返りを中心にして、取り組みに職責よりコメントを記入するかたちで評価とフィードバックを行いました。

3、お互いを大切にし、感謝を伝え、ともに成長し合える施設をつくります

通所リハビリ部では、感謝を伝える場づくりとして職場会議にて職員誕生日会を実施しました。一人一人の声を大切にし、お互いが承認しあえる関係づくりに努めました。

4、役職者評価と育成に取り組みます

OJTでの育成が中心となり、目の前で起こっている事象に対し意見交換を行い、状況に応じ上席者と一緒に行動をともにする取り組みとなりました。評価とOFF-JTが今後の課題です。

5、さくら苑内で活用できるキャリアパス・キャリアラダーについて研究を進めます

アセッサー講習での教材をキャリアパス・キャリアラダーのモデルツールとして活用できる準備を進めていますが、実践への活用が行えていません。改めて全体へ理解を高めていくことから準備を進めていく必要があります。

6、民医連活動を通じ社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます

平和行進や社保関連の学習会等に可能な限り参加することが出来ました。

IV 地域とともに、地域に根付いた運営を進めます

1、今求められる地域貢献活動とは何かを理解し、何が出来るのかを検討・実践していきます

「地域の多世代の生活を支える」視点から毎週金曜日に小学生の下校を安全パトロール隊として見守り、継続的に小学校主催の防犯教室に出席しました。また、生活支援部では地域清掃を6回実施し、36名が参加。通所リハビリ部、リハビリ部では地域民生委員さんと協同し、毎月1回の長沼地域サロンへの企画支援及び講師支援を継続的に行い、新規新地サロンにも今年度4回企画支援及び講師支援を行いました。食養部では、岡山市東区主催の栄養教室に講師として呼ばれ、新たな取り組みの支援を行うことが出来ました。

2、さくら苑ブロックを中心にすえ「地域住民」との協力協同を実現します

今年度ブロック活動として、学習会、秋の紅葉旅行、ご当地メニュー、懇親会等を開催することが出来ました。

3、家族会やさくら苑ブロック活動を通し利用者家族・地域との意見交流を深めます

生活支援部では家族参加型の行事を6回開催し、意見交流の場にすることが出来ました。また、通所リハビリ部では12家族・16名が参加し総勢103人の家族会を開催することが出来ました。

4、家族会やボランティア活動の充実・育成への支援を行ないます

ボランティア活動において、地域からさくら苑に対してのボランティアは延べ130名を超え、さくら苑から地域に対しての地域貢献及びボランティア活動は友の会強化月間中の2ヶ月だけでも176回に達しました。

5、利用者・職員・地域住民のいのちと安全を守る防災対策を進めます

老健施設として、今年度の台風等による自宅及び周辺状況の不安から避難を希望される地域の受け入れを2日間行いました。1回目は、2家族が1泊をされ、2回目は1人が日中事業所で過ごされました。実際に受け入れを初めて実施したことで多くの課題が見えてきましたので、今後具体的な検討を行っていきます。また、福祉避難所における研修に2名が参加し、今後の災害マニュアルの更新に活かしていきます。

V 安定した経営に取り組みます

1、「利用者の生活を守り、職員のくらしを支える」事業所経営を確立するため、利用者確保を職員全体で進めます

通所リハビリ部では、居宅訪問やリハビリ評価のフィードバック等により新規利用者の確保に努め、68名の新規利用者確保となりました。また、積極的に加算を取得するため、リハビリ部と合同会議を設け、リハマネ加算Ⅱ・Ⅲ取得に向け取り組みました。現在要介護者の中で、全体の約90%のご利用者が対象となっています。

2、より質の高いサービス提供が出来るよう、リスクマネジメントの感性を高めます

生活支援部では、リスクマネジメント委員会を中心に危険箇所チェックを実施し、トイレ内の環境改善にもつなげました。危険箇所の把握は増えてきていますが、早期対策が図れていませんので、計画的な改善が今後の課題となっています。

3、事業所経営の実態をより早く正確に伝え、集団討議のできる仕組みづくりに努めます

生活支援部では、その日のご利用者数を休憩室に掲示し、日々のご利用者数を把握する取り組みを継続しました。

さくら苑リハビリセンター 2019年度 方針

2019年度を実り多き年にしていくため、以下の目標を設定します。

I 法人一の接遇を目指します

- 1、だれからみても気持ちのよい対応・接遇を目指し取り組みを強化します

II 利用者・家族に圧倒的に選ばれる施設を目指します

- 1、地域から圧倒的に選ばれる事業所を目指し、部署ごとに実践の見える化を行います
- 2、「強化型老健」を維持し続け、地域における事業所としての役割に努めます
- 3、R4システムの充実運用と電子カルテ導入の検討を行います
- 4、人権を守り利用者本位の個別支援を推進します
- 5、「その人らしさ」を発揮してもらえるよう自己選択、自己決定を尊重したケアに取り組みます
- 6、「安心・安全」を支えるリスクマネジメントに取り組みます
- 7、リニューアル及び新たな事業展開と事業内容の検討を継続的行なっていきます

III 地域・施設を支える職員づくりを進めます

- 1、「学び・考え・実践する」職員を育成し、働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」を進めます
- 2、運営推進会議・主任会議・職場会議など会議・委員会の質の向上を目指します。
- 3、お互いを大切にし、感謝を伝え、ともに成長し合える施設をつくります
- 4、役職者評価と育成に取り組みます
- 5、民医連活動等を通じ、社会保障や「ふくし」を理解する人材育成につとめます

IV 地域とともに、地域に根付いた運営を進めます

- 1、地域の困りごと及び地域貢献活動とは何かを理解し、何が出来るのかを検討・実践していきます
- 2、家族会やさくら苑ブロック活動を通し利用者家族・地域との意見交流を深めます
- 3、家族会やボランティア活動の充実・育成への支援を行ないます
- 4、利用者・職員・地域住民のいのちと安全を守る防災対策を進めます

V 安定した経営に取り組みます

- 1、「利用者の生活を守り、職員のくらしを支える」事業所経営を確立するため、利用者確保を職員全体で進めます
- 2、事業所経営の実態をより早く正確に伝え、集団討議のできる仕組みづくりに努めます

具体的な量的目標、期限目標等は各部署目標書に明記します